

第5回 「寺田縄 写生会」 ** 寺田縄子ども育成会活動報告 ** (2015. 7. 20)

寺田縄埋蔵文化財調査事務所でいろいろな「土器」の写生をしました。
今日は「海の日」の祝日でお休みですが、3名の職員の方々の出迎えを受け、ご指導を受けました。



会場には大小さまざまな土器がテーブルの上に並べられています。

時代は「縄文」、「弥生」、「古墳」等と多彩です。博物館に入ったような気もします。

始まりのあいさつ。緊張で心臓が「ドキドキ」します。でも、決めました。土器を使っていた古代の人達の気持ちになって写生することを。



画用紙と画板が配られます。真っ白な画用紙に何が画かれるのかな。描き終わる、2時間後が楽しみです。

「勾玉づくり」でお世話になった川端さん、中嶋さんから画用紙と画板が配られました。



描く土器を探します。
決めた人たちは、椅子に腰かけ、準備万端の様子。



土器の説明もありました。
この土器は「有孔罎付土器」
(ゆうこうつばつきどき)と
名前がついています。今から
4000年ほど前の縄文時代に作
られました。割れて掘り出され
ましたが、部品を繋ぎ合わせ、
足りない部分は新たに作り足
し、このような形になりました。

土器には模様が付けられています。
「カエル」、「コウモリ」？ 謎です。

普段は博物館のガラスケースに入っ
ていますが、今日のためにここに運ば
れました。

よく観察して縄文生時代にこの土器
を作った時の空気や人の気持ちを感じ
てください。

全国各地の博物館での展示会に貸し
出されるほど、貴重な土器です。





川端さんから土器描写の参考例が示されました。形の整えられた土器を記録します。

これは弥生時代に使われた壺です。模様の一とすじ、一とすじが詳細に記録されます。

大きな壺が二つ。これも記録されます。穴の開いている部分は、発掘の時、土器の破片が見つからなかったため、そのまま復元され、穴も記録されます。



「この細かいところ、描くのに難しいのです」と川端さん。

「本当に大変な作業ですね」と、子ども会の会長さん。

完成された描写図です。詳細に描かれています。中央から右側は、壺の中を記しています。

この壺には、外側だけでなく、口の内側にまで模様が付けられています。

おしゃれな弥生人です。



考古学教室になってしまいました。本題の写生会に話を戻します。

説明に聞き入ります。納得の面持ちです。素晴らしい作品を期待しますよ。



有孔罎付土器に挑戦です。絵かきさんのような立ち姿。大胆に色づけされて行きます。



「むずかしいな。この模様は・・・」
「下の方には黒くすすけているみたいだ」
「この壺はどんなふうに使われていたのだろう」などなど、思い浮かべながら、描きます。



皆が、目も心も一点に集中し、
下書きの鉛筆を走らせます。

あまりにも皆に見つめられ、昔、
土器を作った人たちや土器は、恥
ずかしそうに思われます。



お父さんも、お母さんも画家に変
身です。

競争ではありませんが、私たちも
負けられません。わき目もふらず書
き進めます。



「よく観察すると、こうなっている。ここを描くと完成だ」



「ほら、よく見てごらん。形や、つなぎ合せのぐあい」

「ほんとだ・・・」

「それを描かねば・・・」



川端さんが手にしているのは、奈良時代の「土師器」(はじき)です。しかも外側に人の顔が墨で描かれ、「人面墨書土器」(じんめんぼくしょどき)と呼ばれています。素焼きで出来た、昔のお皿と考えられています。



古代人の土器との真剣なやり取り
です。

描き進めながら、昔の人達と心のや
りとりがされたような気持ちになりま
した。



古代に使われていた土器が、現代人によって描かれました。 古代人との遭遇です。
完成作品の勢ぞろいです。 お母さん方の作品も3点加わりました。

作品は平塚市の社会教育課に提出し、審査を経て、8月17日(月)～28日(金)平塚市の本庁舎、
多目的スペースに応募の全作品が展示されます。 私たちの作品を見に来てください。

「寺田縄かっぱまつり」にも、写真による作品の展示をいたします。